

モニタリングレポート(令和5年度)					
施設名		鈴鹿市第1療育センター			
施設所在地		鈴鹿市西条五丁目118番地の3			
指定管理者名		社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会			
評価担当課		障がい福祉課		問合せ先	059-382-7626
施設の運営状況		(確認方法)月次報告, 事業報告書			
児童発達支援事業延べ利用者数	5,157名	放課後等デイサービス延べ利用者数	660名	保育所等訪問事業	23件
居宅訪問型児童発達支援事業	28名				
事業収支		(確認方法)事業報告書			
項目		計画値(単位:円)		実績値(単位:円)	
指定管理料		43,084,000		43,084,000	
障害福祉サービス等事業収入		91,281,000		91,511,663	
その他		884,000		969,813	
事業活動収入計		135,249,000		135,565,476	
人件費(給与・法定福利費等)		126,119,000		126,809,145	
事業費		1,423,000		1,272,295	
諸謝金		171,000		171,608	
保健衛生費		55,000		41,604	
保育材料費		276,000		180,244	
消耗器具備品費		647,000		615,864	
教育指導費		74,000		73,076	
車両費		200,000		189,899	
雑支出		0		0	
事務費		8,048,000		8,209,553	
福利厚生費・旅費・研修費		328,000		359,437	
事務消耗品費・印刷製本費		709,000		696,412	
水道光熱費		89,000		87,952	
修繕費		11,000		10,907	
通信運搬費		914,000		910,377	
会議費・広報費		0		0	
業務委託費		1,066,000		1,044,863	
手数料		1,380,000		1,371,489	
保険料		422,000		435,943	
賃借料		1,933,000		1,996,154	
公租公課支出		3,000		2,191	
保守料		1,164,000		1,263,369	
渉外費		29,000		30,459	
負担金		10,000		10,000	
事業活動支出計		135,600,000		136,300,993	
事業活動収支		▲ 351,000		▲ 735,517	
施設整備等による収支		▲ 159,000		▲ 158,400	
その他の活動による収支		▲ 8,423,000		▲ 8,420,874	
当期資金収支		▲ 8,933,000		▲ 9,314,791	

評価項目	確認方法	評価	所見
業務の履行確認 (計画書や仕様書の内容を満たしているかを○×で評価)	月次報告書	○	適切に履行されている
	現地調査	○	適切に履行されている
	定例報告会	○	適切に履行されている
サービスの質 (「優良・良・普通・要改善」の4段階で評価)	アンケート	優良	要望はあるが、利用者は満足している
	現地調査	優良	利用者への支援内容は適切である
業務遂行能力 (各種財務指標等を参考に同業他社との比較も含めて○×で評価)	貸借対照表 (拠点区分)	○	純資産がプラスである。
	年度事業報告書 (収支計算書)	△	本年度収支はマイナスとなっているが、前年度までの資金残高により調整できており問題は無い。
	年度事業報告書 (財産目録)	○	資産が負債を上回っている。(差引純資産がプラス)
年度業務報告書の内容評価			(適)・不適
業務の履行、サービスの質、業務遂行能力いずれの点においても適切に実施されている。			
定例報告会の頻度と内容の評価			(適)・不適
月1回の定例報告を受けている。 課題等については、随時協議を行っている。			
緊急時の対応評価			(適)・不適
緊急的な報告を要する案件はなかった。 法人内部での報告体制はできており、必要事項は市にも報告される。 また、基本的な衛生対策も適切に実施している。			
指定管理者の総括評価			(適)・不適
業務の履行やサービスの質、業務遂行能力では問題はなく、また、児童発達支援センターとして、圏域における中核施設としての姿勢も良好である。			
施設の課題と対策			
今後も利用希望者の増加が予想されるため、利用希望者のニーズに答えられる体制を構築していく必要がある。			
施設の方向性			
開設以来、障がい児に対する機能回復訓練、療育指導及び生活指導を実施しており、継続した福祉サービスの提供を行っている。 また、地域の指導的役割も担う、中核的な療育施設として位置づけられる「児童発達支援センター」の指定も受けており、今後は障害者総合相談支援センターあいとも連携と取りながら、引き続き継続した運営を行っていく。			